

せんだい杜の子ども劇場との8年



石巻市立湊小学校 校長 坂本忠厚
(元石巻市教育委員会 社会教育主事)

2010年、湊小は、石巻指定の協働教育推進事業推進指定を受け、多くの事業を展開していた。その中で、6年生が地域の方と協力して、地域防災マップ作りに取り組む授業を参観した。先進的な取り組みと思った数ヵ月後、あの震災。(実際は想定を遥かに超えるものではあったが、あの取組が見えぬ大きな力になっていたことは否めない。)その後、学校は地域住民の避難所となり、児童は近くの中学校で学校を再開する。小学校の避難所閉所の後には、無人となった校舎で、3年生と地域住民との交流会が行われた。近く再興する地域づくりの一環という。そのような関わりのあった学校にこの4月赴任した。全校児童136名の瞳と笑顔が輝く。

地域も人も、それぞれが抱えるものはあれど、復興に向けて学校と地域の核となり、それを支える場になればと思っている。

震災直後、市の教育復興プロジェクトと避難所運営に当たっていたとき、せんだい杜の子ども劇場との出会いがあった。多くの支援や事業が錯綜する中で、斎藤純子代表理事の「私たちは被災地の方が一人でも喜んでくれればいいと思っている。実績や数字は不要。私たちにも気を遣わないで。」というぶれない一言が心に残っている。ある事例。せんだい杜を仲介して、全国から多くの企業が体験ワークショップに参加。その企画、運営のお世話をした時のこと。「小学校の体育館なので、土日に何人くるかわかりませんよ。」という不安にも、「たとえ0でもいいです。賛同する人たちの想いがあります

から。」と一蹴。ひたすら準備に当たった。当日は、館内に子どもたちの歓声が響き渡った。

震災直後から、石巻での、地元組織と連携した「杜の子まつり in 石巻」の継続的な実施、ジュニア・リーダーの活動支援や全国ネットワークを活用しての交流事業、各地での講演会等多彩な活動を展開しながら、熱いエールを送り続けてくれました。その成果は、文部科学大臣表彰や多くのマスコミ等での紹介で実証済みですが、杜の子のイベントで楽しいひと時を過ごした子どもたちの思い出、杜の子のスタッフを見て、保育士や教員を目指すと言った中高校生の心の灯火に映し出されているはずで

日々、全力で走り続けるせんだい杜の子ども劇場。「活動の原動力は何ですか？」と聞くのが愚問に思えてしまう8年間の取組。これからの展開も大いに楽しみにしています。

